

司書合格体験記

文学部美学芸術学科 工藤未越

平成26年度枚方市職員採用試験事務職司書区分に内定をいただきましたので、それについて書かせていただきます。

私が本格的に司書を目指して勉強を始めたのは3回生の4月で、この頃から学内の公務員講座を受講し始めました。この時はまだ絶対に司書になりたいという確たる思いもなく、なれたらいいなという程度のぼんやりした気持ちでした。

また、同時期から学校の自主勉強会に参加し始めました。1、2回生の頃から自主勉強会の存在は知っていたのですが、校地が違うこともあり参加できずにいました。3回生で校地が変わったのをきっかけに勉強会に参加するようになったのですが、ちょうど同じ時期に自主勉強会が同志社大学図書館情報学研究會 DUALIS として始動しました。DUALIS が結成されて、今までの自主勉強会以上に図書館や本に興味を持つ学生間の距離が縮まり、先生方にアドバイスをいただきやすい環境になったのが、この時期だと思います。

私は3回生の12月に就職活動が解禁されたとき、一般企業への就職を目指し活動する周りの友人たちを見て、正直なところ焦っていました。公務員試験の勉強は続けていましたが惰性でやっているようなもので、何の手応えも得られていませんでした。そして半ば周りに流されるようなかたちでいくつか一般企業にも応募しましたが、今振り返るとあの時の自分は目標を見失い、迷っていたのだと思います。銀行、印刷、書店、私立大学事務と様々な業種や職種を受験しましたが、そうして就職活動をした結果私に残ったのはやはり「司書になりたい」という気持ちでした。

ふたたび司書を目指し、私は5月に九州地区の国立大学法人の試験を、6月に大阪府の試験を受験しました。前者は一次試験で、後者は二次試験で不合格という結果でした。落ち込みはしましたが、大阪府の一次試験を突破できたことは私にとってかなりの自信となりました。大阪府の一次試験は小論文による教養考査と記述式の専門考査で、これを突破できたのは DUALIS の勉強会でメンバーのみなさんと学んできたことが無駄ではなかったのだという証明のような気がします。その後もいくつかの自治体の採用試験を受け、その結果、9月に受験した枚方市と熊本県の採用試験に最終合格することができました。そして熟考の末、枚方市に決定し、1月に内定をいただきました。

採用試験を受け続けている間は不安になったり焦ったりすることもありましたが、私の場合は不思議と落ち込むことはあまりありませんでした。たとえ面接で不合格になったとしても、面接を受けたことは経験として自分に残るのだから、というふうに前向きに考えていました。また、私が一回生の頃から司書を目指していたのを知っている周りの友人たちが励ましてくれたのも大きな支えでした。そして DUALIS と、DUALIS を通じて知り合ったみなさんの励ましやアドバイスは採用試験を受ける私には本当に頼もしいものでした。

公務員試験を受験していると思うように勉強が進まず焦ったり、周りが続々と内定をもらう中でひとり不安になったりすることもあると思います。しかし結局は自分のペースで適度に気を抜きながらやるのが、合格につながると思います。自分の好きなことや趣味を受験勉強で犠牲にするのではなく、それを息抜きとして利用しながら頑張るのが一番ではないでしょうか。私の体験談が司書を目指す方にとってのひとつの例として参考になれば、幸いです。

文学部英文学科 西 口 真梨奈

この度は、東京都立図書館から司書として内定をいただきました。その経験を、ここに書かせていただきます。

図書館の採用試験を通過する為には、筆記試験と面接をクリアしなければなりません。筆記試験は、一般教養と専門試験です。一般教養対策として、私は問題集を買って、毎日コツコツ解いていました。わからなければ、高校の教科書を参照しました。特に苦手な理系の問題は、理系の友人に尋ねたりもしました。わからないことを自分で調べる、という手間をかけるだけで、しっかりと知識が身に付きます。

一方、司書の専門試験は図書館学についての記述問題が多いです。正直、出題範囲は非常に広いです。初めは戸惑いました。しかし、ほとんどが司書課程の授業で習った事です。落ち着いて挑めば、クリアできない試験ではありません。勉強方法はインターネットに公開された過去問を参照しながら、司書の授業で使った教科書、プリントで知識を補っていました。

筆記試験を通過しても、面接が待っています。面接については、場数としか言いようがありません。私は、初めは民間企業の採用試験も受けていました。その時の面接の経験が、司書の面接でとても役立ったと思います。また、面接時には、「自己分析」が必要だと言われました、と言われると思います。自己分析は、自分一人で考えても埒がききません。私の場合、家族や友人といった第三者に、自分自身の事をとにかく聞いて回りました。そうすると、長所、短所等、自分では思い浮かばなかった経験が見えてきました。それをまとめて文章にし、今度は友人や家族、司書課程の先生方に見てもらいました。特に、先生方からのご指摘は、大変参考になりました。本当に、ありがとうございました。

実際の所、このような司書の勉強を始めたのは、かなりギリギリでした。その為、毎日不安に押しつぶされそうでした。「とにかく、やるしかない」と思って毎日参考書を眺みつけていましたが、一人きりで勉強すると、本当に精神的にキツイです。こんなに悩んでいるのは自分だけ、という焦りと不安で一杯になりました。そんな時は、友人と共に勉強することを心がけました。授業の空きコマに勉強会をし、司書の問題を出し合い夏休みを過ごしました。こうすることで、勉強へのモチベーションも上がりますし、それ以上に「仲間がいる」と知り、かなり心に余裕が生まれます。

皆さんには、DUALIS という司書の勉強会があります。司書を目指しているのは一人じゃありません。苦しんでいるのも、一人じゃありません。ぜひ、週に3回ある勉強会を活用しながら、一緒に切磋琢磨しながら就職活動を乗り越えて下さい。あと、不安になった時は、溜め込むと本当に良くないので、友人達に相談して下さい。わからないことがあれば、卒業した先輩方にコンタクトをとり、情報収集することも忘れないで下さい。

駆け足でしたが、以上が私の経験です。この経験が、少しでも皆様の就職活動の糧になれば良いと思っています。応援しています。

文学部英文学科 吉 井 嘉奈子

私は今年度、東京都立図書館で内定をいただきました。この体験記では司書を志してから内定までの経緯を報告します。

私が図書館司書という職業を知ったのは小学校4年生の事です。周囲からは、司書は採用が少ないため、正規職員での就職は難しいと言われて続けてきましたが、その時からずっと司書になりたいと思ってきました。そして、同志社大学に入学し、司書課程を取りました。司書課程を取って知ったのは、同志社大学の司書課程はレベルが高く、多くのOB、OGが図書館で勤務されているということでした。司書になるための環境が整えられており、実際に話を聞く

ことができる先輩が多くいたという点で、私は恵まれていたと思います。大学3年生の時、DUALIS（同志社大学図書館情報学研究会）に入りました。同じ目標を持った人たちと一緒に採用試験のための勉強をすることで、モチベーションを維持できたと思います。公務員試験の一般教養の勉強を始めたのは、3年生の秋からでした。しかし、一般企業の就職活動と教育実習があったこともあり、勉強に本腰を入れたのは4年生の7月ごろでした。この頃、DUALISの勉強会に加えて、友達と自主的な勉強会を行っていたことも、効果的だったのではと思います。

幸運なことに、今年度は司書の募集が多い年でした。そのため、私は6月に大阪府の、7月に福井県鯖江市の、9月に東京都、大阪府四條畷市、鳥根県の採用試験を受験することができました。その他に、行政職の募集ですが、司書の資格を持っていることが望ましいという条件で募集していた、大阪府箕面市の採用試験を9月に受けました。その中で東京都にご縁があり、就職が決まりました。

東京都はⅡ類の資格免許職の司書という枠で7人の募集があり、内定までは以下のような流れで進みました。まず、9月に筆記試験があり、教養問題と司書の専門問題がありました。教養問題は40題を1時間50分で解き、専門問題は7題中4題を選択し2時間で解くという形式でした。次に10月の下旬に面接試験がありました。面接は30分の個人面接で、面接官は3人でした。面接カードを事前に作成し、当日はそれをもとに面接が行われました。面接では自己PR、司書を目指した理由、志望動機、希望しない部署に配属されたらどうするか、成果を得た経験、大学で研究した内容、5人でのグループ活動の進行方法、読書支援を浸透させるためには何をすればいいか、10年後の自分の姿などを質問されました。11月に合格通知をいただき、採用説明会がありました。そこでは、ガイダンス、健康診断の他、採用面談があり、併願状況や採用されてからどのようなことがやりたいか、図書館を実際に見て感じた印象などについて質問されました。健康診断と採用面談の内容を受けて、12月に内定通知をいただく、といった流れになっていました。

以上のような経緯で、東京都立図書館の司書として内定をいただきました。

文学部英文学科卒 林 玲 花

このたび、四條畷市に2015年4月採用の司書職で内定をいただきました。私は2014年3月に大学を卒業した後、滋賀県の野洲図書館で臨時職員になりました。このことも含めて、合格体験記を書かせていただきます。

私は図書館に興味があり司書課程を取りましたが、司書になるつもりはありませんでした。3年生の冬からは民間企業の就職活動を始めましたが、自分が本当にやりたいと思える仕事を見つけないことができずにいました。自分が目指す職業として司書を意識するようになったのは、大学の図書館情報学研究会（DUALIS）への参加がきっかけでした。4年生になったころ、当時発足したばかりのDUALISのメンバーと司書課程の授業で知り合いました。グループ研究やディベートのための話し合いで図書館について語り合ううちに、DUALISの活動にも参加するようになりました。勉強会や図書館見学などのDUALISの活動を通じて、この先も図書館に関わっていきたいと思い、司書を志しました。司書の試験に臨む仲間が周りにいたことや、実習で図書館の仕事を体験したことも特に大きな影響になりました。

秋から冬にかけて、何度か司書職の試験を受けました。多くの公務員試験が行われる時期を過ぎていたので求人情報が少なく、館種や地域にはあまりこだわらずに受験しました。試験の形式は自治体によって様々で、専門試験を設けないところもあり、教養試験も年齢制限に応じてレベルが異なりました。公務員試験の準備をしていなかったのが不安でしたが、就職活動でSPIなどの適性検査を経験していたので、あまり壁を感じることはありませんでした。集団討

論や面接においても、場慣れをしているという点で就職活動の経験が役に立ったと思います。自信がなかった専門試験については、DUALISの勉強会で問題を出しあったり、司書課程資料室に保存されていた過去問を解いたりして対策をしました。一次試験を合格したところもありましたが、最終的にいずれの試験も不合格となりました。2月下旬ごろからは、地元である滋賀県内の図書館の嘱託職員や臨時職員の試験を受けました。臨時職員の試験でいくつか合格をいただき、実習でお世話になった野洲図書館で働くことに決めました。

卒業後、4月から実際に図書館で司書として働きはじめました。臨時職員の任期は最長で1年だったので、その年から試験を受けていこうと考え、採用試験の情報を集めていました。同じ日程で試験を行う自治体が多く、また仕事をしながら試験を受けに行くのが大変なので、受験する自治体を絞り込む必要がありました。そのために、現在働いている図書館のほかにも、DUALISの活動の中で知った各地の図書館や、実際に見学に行った図書館、試験を受けた図書館のことを思い出しながら、どんな図書館で働きたいのかを改めて考えました。そして、やはり地元である関西の公共図書館で働きたいと考え、6月に神戸市、9月に四條畷市と堺市の試験を受けました。神戸市と堺市では最終の二次試験で不合格となりましたが、四條畷市から内定をいただきました。

私は司書を志した時期が遅く、自分が司書になってもよいのだろうかと思うこともよくありましたが、学生の間も卒業後も、図書館が好きな仲間や、学内、学外の先生、図書館関係の方々との交流がととてもよい刺激となり、また家族や職場の方々の協力もあって進み続けることができました。仕事を始めてからは、日々現場で学ぶことがたくさんあり、司書としての経験の積み重ねが試験で活かされましたし、これからも役に立っていくと思います。私の例は回り道かもしれませんが、司書を志す方に少しでも参考にしていただければと思います。

文学部国文学科卒 谷口未妃

2015年4月より京都府公立学校司書として採用されることになりました。様々な人とのかわりやご縁でここまでやってきたという実感がありますが、すべては勉強会からはじまったことでした。

転機は司書課程の図書館演習Ⅰでお世話になった中島幸子先生より、同志社大学司書課程勉強会のご紹介をいただいたことでした。引っ込み思案の私が勉強会の代表を務めることとなったのも、当時図書館へ就職希望の学生のうち申し出たのが私1人だけということからでした。4回生になると勉強会を開き、原田隆史先生にアドバイスをいただきながら過去問を解いたり情報共有をしていました。やはり経験が大切ですので、今のDUALISのように図書館見学に出かけたり、他大学との交流を行うことができたならよかったですと思います。

4回生の間は2つの学校図書館でお手伝いをしていました。室町小学校図書館ボランティアに参加し、図書の整理や読み聞かせをさせていただいたほか、放課後まなび教室の学習サポーターとしても関わりました。また、同志社女子中学校・高等学校では、司書の方とのつながりがあり、書架整理のアルバイトに声をかけていただきました。書架整理や配架は図書館業務の大切な基礎の部分になる仕事です。この経験はたいへん勉強になったと思っています。さらに同志社女子中高では、図書館実習でもお世話になりました。

このような経験をしながら、学生の間は司書採用試験があればこつこつと受験していました。とにかく落ちて学ぶことがあるだろうと考えて遠方にも受験に行き、合わせて図書館の様子を見学しました。しかしなかなか最終合格までは辿り着かず、卒業間近となった3月初めによりやく滋賀県草津市立南草津図書館の臨時職員として採用が決まりました。主にカウンター業務や配架、利用者対応、絵本の読み聞かせを担当しましたが、やはり学校図書館で勤務したいという気持ちがあり、1年勤務したのち、同志社女子中高で契約の司書として勤務することと

司書合格体験記

なりました。そこでは資料登録から予算管理、広報、展示、生徒対応までを幅広く行いました。南草津図書館では夜遅くまでの勤務もあり、司書試験のための勉強にとりかかる前に力尽きていましたが、同志社女子中高で働き始めてからは勉強会にも戻ってくることができました。現在も同志社女子中高の前任の司書の方々とも集まる機会があることはたいへん有難く思っています。

京都府公立学校司書として採用されることとなったのは、いまだに信じられませんが、今までの経験を経た自分を見てくださったのかなと思います。これまで支えてくださった方に感謝を申し上げるとともに、この体験記が司書を目指す皆さんのお役に立てば嬉しく思います。